

サービラーニング発祥の地 アメリカで視察

2010年2月22日から3日間、米カリフォルニア州でサービラーニングの取り組み視察を実施した。現地ではボランティア活動がさかんで、大学におけるサービラーニングも定着している。その先進事例に学び、芸文短大のプログラムに活かそうというものだ。

視察グループ(代表・吉良伸一教授、以下4名)が訪問したのは、1日目ノートルダム・ド・ナミュール大学(ベルモント)、2日目ドミニカン大学カリフォルニア校(サンラファエル)、3日目キャンパスコンパクト・カリフォルニア州事務局。事前に視察計画を事務局に打診し、受け入れを表明していただいた2校を訪ね、あわせて事務局で定期的で開催されているコーディネータ会議に参加したものである。

まず視察のポイントを整理しておこう。ポイントは5つ。「どのような活動メニューがあるのか」、「学生の取り組み、成長ぶりはどうか」、「コミュニティパートナーとの関係はどうか」、「活動成果の評価基準はどうか」、「実施体制はどうか」。いずれも是非とも知りたかったことばかり。こうした視点から、当日の模様を振り返ってみよう。

◆ コミュニティサービスは社会正義 ノートルダム大学から



移民女性に教育機会を与えるべく設立された大学。カソリックの思想性も影響してか、「サービラーニングの目的は社会正義」と明快な答え。

コミュニティサービスを束ねる学内機関があり、年間300時間以上活動した学生には、奨学金制度もある。

体験メニューも豊富で、地元の博物館やギャラリーで学生が企画展示をする「キュレーター育成」や、貧困、ドラッグ

蔓延の構造的な問題を現地で考える「インナーシティを往く」、子どもに科学を教えて共に遊ぶ「科学チューター育成」など、興味深かった。ラティエノの卒業生が、活動をとおりして自分の民族の問題を仲間と真剣に議論した、と語る姿が印象的だった。既存の体験メニューを参考にして、協力を願い出してくれるコミュニティパートナーも多いそうだ。

◆ 活動管理のシステムづくり コーディネータ会議から

州内の各学で地域活動をコーディネートしている実務者による会議で、舞台裏の話が飛び交っていた。学生の活動レポートを一括管理するシステム構築が必要であることや、慣れない学生を送り込むさい、安全上のリスク管理が疎かになりがちであるといった問題点が指摘されていた。

視察のまとめ

— 視察から得た3つの指針 —

- ① 専門科目とのつながり強化
- ② リフレクションの徹底
- ③ 日本的・芸短的文脈の検討

2つの大学では、専任教員の多くが各自の専門分野に対応した地域活動のフィールドを持っており、その場で専門科目とコミュニティーサービスのつながりが有機的であった。また、活動後のリフレクションを学生個々の学習目標やパーソナリティに配慮しながら、徹底して行っていた。いずれも学ぶところ大であったが、それらを性急に取入れるより、日本的・芸短的文脈のもとで活かす方法を模索する必要があると感じた。



講義と活動のつながり秀逸

本学プログラムへの反応

ノートルダム大学では、本学の取り組みに意見を伺う機会を得た。まず、情報コミュニケーション学科が、30時間以上の活動を選択必修科目としている点に驚かれた。また、学生たちがそれをきちんとクリアし、卒業して行くことに対して、評価が高かった。

そして、コミュニティパートナーを学内に招待し、講義で呼びかけてから、学生が活動に赴く流れは、秀逸であるとされた。

他方、アカデミックな観点からの掘り下げについては、課題を指摘された。たとえば、「鶴崎 SAEMON23」は地域活性化の話に限定せず、宗教社会的な角度からも学生にリフレクションをうながすべきとする意見もあり、研究者としても刺激を受けた。



◆ 活動して自分の価値を悟る ドミニカン大学から

ノートルダムと同様に、カソリック系のリベラルアーツ大学。高い倫理観をもったグローバル市民の育成を旨とする。サービラーニングは Semesterごとに200人前後が履修し、活動時間はのべ4000時間を超える。

「自分の価値を悟る」ことを目的にする取り組みゆえに、体験メニューは多様な価値観に開かれている。栄養学にもとづく配食サービスで貧困地区の「食の福祉」を実現するもの、パブリックアートによるコミュニティ再生の試み、エイズの啓発・支援をとおり社会的マイノリティの理解を深めるもの、など。かつて法曹を志していた富裕層の学生が、貧困地区における教育の不在を目の当たりにし、現在は教師を目指している、という。これこそ、眩しいほどのナラティブであると感銘を受けた。



Information

地域活動フォーラム 2010 2月1日(火) 開催!

- 入場無料
- 開場 12:30 ~ / 開演 13:00 ~

2月1日、芸文短大生によるサービラーニングの報告会がコンバルホールにて開催されます。今回のフォーラムでは、取り組みについての説明と、学生による活動発表を行います。学生による活動報告は平成22年度で取り組んだ活動から、SAEMON23、環境活動(上野の森の会・上野の森アートフェスティバル等)、あしなが育英会(学生募金・Pウォーク)、竹田食育リズム研修、大分七夕まつり、府内学生エコフェスタ、日韓次世代交流映画祭などを予定しています。開場12時30分、開演13時、入場無料ですので是非、お越しください。



Voice

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542(代表) / fax.097-545-0543

